

17人目

-お名前-

すずき よしゆき

鈴木善幸さん

-なにをしているひとですか？-

利府町に工業用機械刃物の製造工場をもつ株式会社トオハの代表取締役社長です。

とふ
十の里びと
さと

宮城県利府町から生み出された
卓越した技術とともに躍進する

先端技術と熟練の技術を
受け継ぐ

株式会社トオハは、株式会社東洋刃物のグループ会社として設立しました。東洋刃物(本社・富谷市)は、1925年に金属学の世界的権威である東北大学の本多光太郎博士との産学連携で設立された会社です。当時工業用刃物は海外製品がほとんどで、国産で製造できる工場がなかった中、先駆的な存在でした。当初トオハでは、使い込まれた工業用刃物の再研磨を主たる事業としていたそうです。機械に取り付けられた刃物は、使用しているうちにエッジが丸くなり切れなくなってくるので再研磨をするのですが、一部は手作業で行うこともあり、熟練した技術が求められました。現在は、再研磨業務とあわせ製品注文に応じて設計から製造、販売を一貫して行っています。扱う刃物は、包丁やハサミなどの家庭用刃物ではなく、製造現場で使われる工業用機械刃物です。その種類は、鉄鋼用、合板用、製紙、木材(パルプ)、製本用、精密産業用、段ボール用、粉砕用と多岐にわたります。

産業を支える
工業用機械刃物

工業用機械刃物は、主に平物と丸物があり、平物は、大きな包丁のような板状の形で、自動車などの製造工場などでは、鉄や金属板切断用の大型シャープレードや棒鋼やアンクルバーを切断するコールドシャワーが使われています。印刷物や書籍の紙製品を切断する断裁刃、パルプの原木を製紙原料用木材チップに粉砕する刃も平物です。丸物は、円板の外周に刃物が付いて、回転しながら対象物を切断していきます。電子部品用として、PETフィルム、紙テープ、ゴムシートをスリットするナイフ。ダンボール箱を製造する工場でダンボールシートの溝切りに使用されるナイフ。食品用では、食肉ハムの切断に使用するスライサーなどがあります。様々な製品がある中で、現在はダンボール用刃物がトオハの主力製品となっています。自社生産の40%を占めています。コロナ禍になって宅配需要が伸びるなか、ダンボール箱の生産が増加しているそうです。「現在、全国シェア20%であるこの部門を40%以上に伸ばしていきたい」と鈴木社長は考えています。その他、産業廃棄物関係の粉砕刃の受注も好調で、リサイクル工場などでペットボトルを粉砕する際に使う刃物にも力を入れています。

製造現場を拝見

鈴木社長に製造過程を案内してもらいました。工場前の敷地に積ま

創業から60年の節目

2021年に創業60年を迎えました。ここ数年で創成期から会社を支えてくれた生え抜きの社員の方々が任期満了を迎え退職することになり、50人程いる社員の約2割が新人と入れ替わりました。「工場で働く社員を集めることが難しい時代です。社員に対しては、休日や勤務時間など職場環境を良くする努力をしています。新入社員の多くが再就職ですが、定着率は良いほうだと思います。」「会社自体も還暦60年を迎えて、生まれ変わろうという転換期です。これからは先輩たちが培ってきた加工技術を継承し、新しい人材を育てながら、お客様のニーズに応じた工業用刃物の製造に尽力していきたいです」と話してくださいました。

取材 渡邊木花
文 葛西淳子

取材 渡邊木花
文 葛西淳子

会社情報
株式会社トオハ

利府町しらかし台6-3-5
022-356-5041(代)
toha@toha.co.jp
https://www.toha.co.jp/index.html

トオハ

工業用機械刃物
製造・販売・研磨
レーザー加工

利府町で活躍する事業家を毎号紹介していきます

十符(とふ)とは？ …… 昔、利府町の湿地帯には、良質な菅(スゲ)草が自生し、「菅薦(スガコモ)」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅薦の編み目が10編あることから「十符の菅薦」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになり、十(と)が利(と)に、符が府に変わったと言われていす。

from RIFU-CHO CHALLENGER

今回ご紹介するのは、アトリエジェルメールブルーの清水晴佳さんです。利府町に移り住み、念願のフラワーアレンジメント教室を開業しました。

CHALLENGER

アトリエ ジェルメールブルー
atelier germerbleue
清水晴佳さん

一人ひとりに寄り添うレッスンがしたい

ママと子どもと一緒に季節の花を楽しめる「親子で通える」お花の教室を作りたい。そんな思いを胸に、清水さんは2021年3月に千葉県から宮城県利府町に移り住み、その年10月、自宅の一室にフラワーアレンジメント教室をオープンしました。教室名のジェルメールブルーとは、フランス語をもとにして考えた「germer(芽吹く)+mer bleu(青い海)」という造語です。一人ひとりに芽生えたものが、青い海のように大きく、深く、成長していくように願って名付けました。レッスンは、小さな子ども連れでも気兼ねなく通える1枠1組の花育親子レッスンはじめ、仕事や育児のリフレッシュに、資格取得を目指してなど、それぞれの目的にあったプログラムを組んでいます。

好きな花の仕事をしたいと、一念発起

結婚後、会社勤めをしながら趣味の一つとしてはじめたフラワーアレンジメント。6年続けているうちに花を扱うことが楽しくなり、「いつかお花の教室を開きたい」と思うようになったといいます。転機となったのは出産を経た32歳の時。「やっぱり好きな花の仕事がしたい」という思いがふくらみ、実経験を積むために花業界へ転職。ブライダルフラワーコーディネーターとして働きながら、2年間花仕事の基礎を学びました。そして夫の転勤を機に、利府町で念願のフラワーアレンジメント教室をオープンする運びとなりました。利府町には永住するつもりだという清水さん。選択の決め手は、自然が豊かなこと、子育てしやすいこと、そしてtsumikiという起業支援施設があったことだそうです。利府町で起業するにあたり、地域の情報収集、事業経営相談のためtsumikiを訪問。スタッフのアドバイスを受け、tsumikiの「こ・あきない市」などマルシェイベントに出店し活動の幅を広げています。

「花育」をとおして、子どもたちの成長を楽しみたい

もう一つ、清水さんのプロフィールのなかで、特徴的なのが「花育士」という資格です。花育とは、子どもが花や緑にふれあうことで、心の豊かさを育む活動です。3歳〜小学生を対象としたレッスンでは、季節の花を使って季節毎の行事をテーマに作品を作ります。「子どもたちの感性のおもむくままに自由に創作することで、自分で考える力や創造力を身につけてほしい」と清水さんはいいます。作品を写真で綴る「花育アルバム」は、子どもの成長記録にもなる大好評です。花育のコースは、この春からは個別レッスンの他に、月1回tsumikiを会場に少人数のグループレッスンがはじまります。「同じ花材を使っても、一人ひとり個性がある作品ができるので面白いですよ」。好きな花とふれあう贅沢な時間を、教室に通う親子とともに共有する充実した日々が続いています。

取材・文 葛西淳子

花に魅了され
夢の実現に向けて
一步一步前進

キッズ花育とフラワーアレンジメント教室
atelier germerbleue

090-7211-6734
https://ateliergermerbleue.localinfo.jp/
instagram @atelier.germerbleue

tsumiki TOPIC

【 利府の魅力再発見！
「ハマスカPRフェア」開催 】

利府町浜田・須賀地区(通称:ハマスカ)をPRするイベントが、2月23日(水・祝)にイオンモール新利府南館1階ライブスクエアを会場に開催されました。生りの、焼きのり、ワカメ、牡蠣などの海産物の販売のほか、浜田地区の飲食店から「瀧さわ家」の稲庭うどんや「MOLAMOLACAFE」のコーヒー豆などの出品もありました。また、紙ハゼ釣り、段ブロック船づくり、ハマスカすごろくなど海に関連する体験ワークショップが行われ、親子で楽しむ姿が多く見られました。ライブスクエアの壁にある大型ビジョンでは、ハマスカのPR動画が放映され、多くの方が視聴していました。SUP(スタンドアップパドルボード)コーナーには海の写真の展示もあり、来場者からは「実際にSUPをして

tsumiki
利府町まち・ひと・しごと創成ステーション

利用時間
9:30-17:30
(水・金曜日は21:00まで開館)

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2
TEL 022-766-9231
FAX 022-766-9232
Email info@rifu-tsumiki.jp

設置運営 利府町(商工観光課シティセールス係)

管理運営(業務委託者) 一般社団法人Granny Rideto

Granny Rideto(エスペラント語)は、日本語で「おばあちゃんの笑顔」と訳します。これから高齢化社会を迎える中で、おばあさんになっても笑顔で暮らせる社会をつくりたいという意味が込められています。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意志が込められています。

公式ウェブサイト
rifu-tsumiki.jp

Twitter
@rifu_tsumiki

Facebook
<tsumiki>で検索

Instagram
@rifu_tsumiki

「つみきのキモチ」は、利府町内を中心に隣接する市町村の公共施設、カフェ、店舗などで配布しています。

つみきのキモチ vol.17 発行日●2022年3月31日 発行●利府町 企画●一般社団法人Granny Rideto 編集●葛西淳子・五十嵐千晶・桃生和成(一般社団法人Granny Rideto) デザイン●伊瀬谷美貴(Interagire)